

農林水産関係全国レベル大会受賞

◇平成20年度日本農林水産祭【ゆたかな村づくり部門】◆内閣総理大臣賞:田沢湖牛銘柄確立推進組合(モートピア神代・代表 藤村正喜)は、自らが和牛飼育・堆肥生産の主体となって耕畜連携や、生産者と米小売店が主体となって生消連携、地域ぐるみ活動による特徴的な活動展開をし、消費者ニーズの高い安全・安心な農産物提供による地域ブランド確立と農家の経営安定を実現しており、新たな組織作りのモデル事例と認められ、このたびの受賞となりました。



写真手前が雲雀・藤枝、後ろが山本・青柳

◇第17回全国産業用無人ヘリコプター飛行技術競技大会◆農林水産大臣賞:スカイハート角館(藤枝・雲雀チーム)

この競技は、無人ヘリコプターの操縦者と合図者の2名がペアとなって行われ、操縦精度と飛行速度の均一性、飛行の安定性を競い、いずれも大変優れているという採点で、3,204.26点(3,210点満点)という高得点により、このたびの受賞となりました。また、同スカイハート角館(青柳・山本チーム)はC部門(経験年数3年未満)で3位でした。

「子ども・子育て支援推進セミナー Part2」が開催されました

11月16日に秋田内陸線縦貫鉄道車内で開催されたこのセミナーは、子育て支援のネットワーク構築化を地域全体で考えてもらうことを目的に実施されました。上は70歳以上から下は10ヶ月の子どもまで、大仙市、仙北市、美郷町からそれぞれ子育てに携わる多くの方々にご参加いただきました。

参加者は、内陸線の中で催された塗り絵やお手玉・玉入れ、絵本の読み聞かせや紙芝居、パンの型抜き、バルーン遊びなど盛りだくさんの内容を飽きることなく楽しんでいました。

昼休憩時には、みんなでご飯を食べながら、日頃の子育ての悩みや喜び、どんな支援があったら子育てしやすい地域になるかなど、和気藹々と話していました。

午後の万華鏡づくりは、体験したことのない方がほとんどで、大人から子どもまで真剣に取り組んでおり、できあがったものを喜んで見せ合ったりしていました。

参加者からの事後アンケートでは、「またこのような機会を設けて欲しい」という意見が多数寄せられました。

あたりを見回せば、「子育てを手伝って欲しい!」と思っている人、逆に「子育てを手伝いたい!」と思っている人がたくさんいます。

住民一人ひとりが『子どもを生み育てやすい大仙仙北地域』を意識し、互いが必要としている情報を共有できる社会を目指して『子ども・子育て支援推進仙北地区協議会』は今後も活動を続けていきます。



庖和会がたざわこ清眺苑を慰問

11月20日、田沢湖調理師庖和会(斉藤忠一会長)の会員7名がたざわこ清眺苑を訪れ、入所者の皆さんに山の芋鍋を振る舞いました。

毎年山の芋の収穫盛期のこの時期に行っており、今回で27回目。地元産の山の芋、セリや鶏肉などが入った山の芋鍋は、おかわりする人もいるほど大人気で、皆さんおいしそうに食べていました。

